

平成 24 年度第 1 回海岸工学幹事会議事録

開催日時:平成 24年4月 18日(水)14:00～16:30

開催場所:土木学会 AB 会議室

出席者:間瀬委員長, 後藤幹事長,

小委員会代表:青木, 岡安, 重松, 森の各委員長, 川崎, 佐々木, 富田, 渡部の各副委員長
委員兼幹事:小笠原, 柿沼, 北野, 栗山, 佐藤, 諏訪, 武若, 丹治, 藤間, 松山, 陸田, 森屋,
山城

資料:PowerPoint 資料 1

開催にあたり, 本年 1 月に逝去された合田良實横浜国大名誉教授へ黙祷が捧げられた。

1. 議事前報告事項

後藤幹事長により資料確認がなされた後に以下の項目について報告がなされた。

委員について

- ・青木委員が大阪大学に移動された。これまで青木委員は中部地区の委員であり, 現在の任期中はそのまま中部地区の委員として継続する。
- ・榊山委員兼幹事が松山委員兼幹事に交代した。水工学委員会派遣委員も松山委員兼幹事が引き継ぐ。
- ・土木学会論文集(B 部門)合同編集小委員会 への派遣委員(2 名)は田島委員から武若委員に交代した。(もう一名は森委員)

報告事項

- H24 重点研究を提案したが採択されなかった。
- 土木学会から委員会活動度評価要領の見直し案の問い合わせがあった。自己評価簡素化の提案であり, 賛成にて回答済である。
- 土木学会から調査研究拡充支援金の算定方法の見直しについて問い合わせがあった。
 - ・執行部で協議し, 参加者のみでなく多面的な評価となるべきという反対の意見書を提出した。本年は暫定的に参加者数に基づいて支援金が算定されることとなり, 海岸工学委員会への支援金はほぼ例年通りの金額となる見込み。なお, 算定方式は, 継続協議とのこと。
 - ・参加者数を基準に支援金を決める方針が採用されると, 参加者数を増やすためのイベントの開催が多くなるのではとの懸念が示された。
- 「海象予測システム技術の振興」(間瀬, 安田, 森)が H24 年度科学技術分野の文部科学省大臣表彰を受賞した。

2. 報告・審議事項

- 小笠原委員より海岸工学講演会について報告があった。
 - ・全会場で最大 350 名程度、1 会場で平均して 50~60 名程度の参加者であったことが報告された。

- 青木小委員長より第 59 回海岸工学講演会(海岸工学論文集第 59 巻)の投稿の審査について報告があった。
 - ・407 編の応募があり昨年度より 40 編増加した。第一次採択は 302 編となった。
 - ・今年度の著者負担金は例年通り 35000~40000 円の予定である。

 - ・投稿された論文の中で貴重なデータでありながら、内容が良くない論文がある。貴重なデータが埋もれるのは惜しいので、発表できる場が必要と感じたと、森委員よりコメントがあった。それに対して、通常号にノートや報告に投稿してもらうような方法があると意見があり、投稿者全体に、ノートや報告に投稿を募る旨を連絡するように進めることとなった。

- 今年度の講演会の状況について、陸田委員より説明がなされた。
 - ・講演会は広島国際会議場で行う。11 月 14~16 日、13 日と 17 日もシンポジウム開催のために予約済みである。
 - ・椅子ありと無しの会場をそれぞれ用意する予定である。
 - ・懇親会は 11/15、ANA クラウンプラザ広島で実施予定である。
 - ・見学会は中国地方整備局に協力いただき 4 コースが候補となっている。

- 第 60 回の講演書きについて九州大学の山城委員より説明がなされた。
 - ・2014 年 11 月 13~15 日の予定、前日の 11 月 12 日も予約した。
 - ・会場は九州大学医学部百年講堂と同窓会館を予約。
 - ・現在：第 1~5 会場を確保、第 6 会場は今後検討する。

- 第 61 回(平成 26 年(2014 年))は、中部地区で検討することとなった。

- CEJ について佐々木副小委員長より説明がなされた。
 - ・4 月号は作業中であること、3 月号の津波特集号は 2012 年 12 月末までフリーアクセスであること、6 月号は 4 編確定しており、発行に支障はないことが報告された。
 - ・World scientific のシステムの変更で、電子ジャーナルとしてページが最初は振られていないものがある。

- 広報小委員会の説明が森小委員長よりなされた。
 - ・沿岸災害データベース、研究者と一般向けの情報について検討中である。

- ・討議集についてその実施・未実施も含めて議論したいとの提案があった。活用度はどの程度なのかという質問に対して、アンケートに答えた半分程度の人が閲覧しているとの回答があり、比較的活用されているとのコメントがあった。また、回答状況において、回答しない人がいるとのコメントがあり、回答しないことも一つの回答案であるとのコメントがあった。さらに、web 投稿による質問も昨年度では 50 程度ほどと実績があることが報告された。議論の結果、会場での紙配布を中止し、web ベースを基本とすること、Jstage の論文との連携も含めて検討を進めることとなった。

○研究小委員会活動について、各担当委員から各報告がなされた。

- ・富田委員より、津波小委員会について、TechnoOcean2012 が 11/18-20 神戸国際会議場で開催され、東日本大震災としてオーガナイズセッションがされることが紹介された。また、津波小委員会が今年度 9 月で 3 年の期限を迎えるが延長する方針で検討中であることが報告された。

○水工学夏期研修会について、渡部委員より説明がなされた。テーマは数値波動水槽

- ・2013 年度は中部地方で検討することとなった。

○その他

- ・武若委員より国際セッションの論文を委員会のページに掲載すること、その作業は広報小委員会と連携して進めていきたいとの提案があり、了承された。
- ・森屋委員より日本海洋工学シンポジウムの紹介がなされた。4/30 が投稿締め切りである。<http://www.oesymposium.com/>
- ・森委員より、論文集委員会からのお願いとして、査読依頼があった場合にはできる限り協力をお願いしたいとの発言があった。

以上
記録：松山